



# 讃岐化学工業



杉山雅春 社長

フラインケミカルの受託製造で存在感を高める讃岐化学工業。引き続き電子材料関連を主力分野としながら、次代の柱を目指し新規案件の試作を推進している。「得意とするのは、ものづくり。製品の売り込みでなく、『こんな設備はないか』のような反応をしたい」といった顧客ニーズを引き出し、それを具現化するための技術営業が中心」（同社）として今後も受託製造に力を注ぐ。

同社は、高松の本社工場に続く第2製造拠点として1992年に建設した白鳥工場（香川県東かがわ市）で10年以降、5年間で約10億円を投資し受託設備の増強を実施した。これにより、多品

## 受託製造技術さらに磨き

種の電子材料をはじめとする高機能化学品の生産に対応できる基盤を整えた。

白鳥工場の反応釜は、500ℓから最大で1万ℓ。ガラスライニング製やステンレス製はもとよりフッ酸など腐食性の高い化学品に対応するためのフッ素樹脂ライニング製の設備も備えている。白鳥工場は分析装置も充

実しており、低メタル製品を生産するなかで半導体関連の受託案件が近年増加している。「今以上に少量多品種の流れが強まる（同）とみており対応をさらに強めていく方針」。

同社の強みは「小回りが利くこと（同）。加えて強腐食性物質の取り扱い、それを実現する耐食材料の製造設備を擁して

いること。顧客は西日本にとどまらず全国に広がっている。

「規模でなく真の技術者集団（同）を指している同社。課題は「一人ひとりのレベルアップに尽きる」（同）としており、得意技術と設備群を生かし、さらに存在感を高めていく。



幅広い材質の反応釜を設置し技術レベルの高い受託に対応